

[城門] **命懸けの村の守り** ポルトガル オビドスの城塞

スペインならイベリコ豚で有名な州と同名のエストレマドゥーラ地方(国の中央部に位置する)の人口800人の小さな村である。古代ローマ時代から海からの賊の侵入に備えた城塞だった。イベリア半島は長らくムスリムの牛耳るところとなっていたが、イスラーム一派のムラービト王朝とのオーリックの戦いに勝利し、ポルトガルはスペインより早くムーア人からの国土奪回に成功し、キリスト教の国家を復活する。国際的にも独立を承認された初代ポルトガル王アフォンソ・エンリケスは、AD1148以降戦いで崩壊したこの城塞の街を見事に再建する。後にその城塞の美しさに魅せられた王妃イザベル(聖女とうたわれる心やさしい女性)のためにAD1282ディニス王がプレゼントし、AD1834まで歴代の王妃の直轄領となるなど逸話の多い村でもある。最近では映画のロケにもよく使われているらしい。大掛かりなセットが教会の裏にあった。

垂直な何の手掛かりもない城壁は、外敵に対する防備の固さを思わせるが、コンパクトな城塞の中はご多分にもれず狭い。その敷地を如何に有効に利用するか、村人の工夫はすごい。現在は観光客相手の

店となっているが、建物の壁面はすべて道路に沿って揃えられ、道は極力狭く、なおかつ迷路のように入り組んで造られている。これもすべて敵の攻撃に備えたものだ。街路樹などは自立しては邪魔になるからと、幹が半分外壁に埋まっている。それでも長年の手入れのおかげで立派に花を咲かせているのは見事だ。



←揃えられた壁面線に張り付くような街路樹

↓壁面にめり込んだ植栽 それでも青々としている

